

2017年10月11日

日本ガス協会 岡本会長 会見発言要旨

4月の都市ガス小売全面自由化の開始から半年が経過したが、システムトラブル等もなく、自由化にスムーズに移行できた。

半年間の特徴的な動きを申し上げる。当初は、近畿地方で関西電力が積極的にスイッチ活動を行い競争が激化していたが、その動きは中部地方や九州地方にも広がり、関東でも最近になって東京電力が本格的に参入するなど、競争は今後ますます激しくなると想定する。

このように競争が進展するなか、都市ガス事業者はお客さまに提供する価値を高めるために各々創意工夫を図っている。新たな料金メニューやサービスの導入が全国的に進み、その動きは中小事業者にも広がっている。このように各事業者がお客さまメリットの向上に取り組んでいること自体が、自由化の成果といえ評価すべき点であると考えている。

次に保安について申し上げる。自由化後も、保安の水準の維持向上は業界にとって最優先の課題と認識している。そうした認識の下、新規参入事業者支援などガス業界を挙げた取り組みを実施している。例えば、大手ガス導管事業者が開催する保安訓練に、新規参入事業者が参加したり、双方での保安に関する連絡会を定例的に開催するなど、連携協力を深める事例もすでに出てきている。

今後も保安に関して、全ての事業者がしっかりと連携することで、ガス業界が一体となり、お客さまに安全に、そして安心して都市ガスをご利用いただくよう努めていく。

最後に、今後のエネルギーをめぐる主な動きについて一言触れる。

一つ目はエネルギー基本計画の改定である。現在、中長期を見据えた検討が進められているが、経済や環境、安全保障など幅広い視点を持ちつつ、不確実性に対応するために、あらゆる選択肢を検討していただければと思う。

次に国際会議の開催である。今月、我が国でLNG産消会議やIGU理事会が開催される。LNGの安価かつ安定調達という大目的に資するよう、この機会を活用し、我々の考え方を積極的に発信していきたいと思っている。

以上